
広崎うらん

ダンスと演劇と音楽と

広崎うらん Uran Hirosaki

Choreographer/Artistic Director/Player

◆生い立ち

3歳の時、踊る喜びを知る。

幼少よりモダンダンス、ピアノ、音楽、絵画、華道、茶道、書道と、習い事とテレビ、マンガに費やす。5歳よりストーリーマンガを描き、9歳の時、50ページ読切りを初めて描き上げる。以降連載物を随時発表。中学の時の夢は「最年少でマンガ家デビューし、映画化し、監督をやる!」こと。14歳の体育祭で革命的フォークダンスを初振付。その後もダンス、バンド、美術、マンガ、応援団と青春を謳歌する。大学ではグラフィックデザインを学びつつクラシック・バレエ、ジャズ、ヒップ・ホップ、ストリートダンス、タップ、ボールルームダンス、アルゼンチンタンゴ、リンディホップなど様々なダンスを習得。

Zooを生み出したダンス番組にダンスエクストラとして出演し、司会にまで登り詰め、渡辺プロダクションにスカウトされバラエティタレントとして、食と旅のライター、フジテレビ月9、TBSなどのドラマや舞台では女優、またFMラジオのパーソナリティとして活躍。

現在はコレオグラファー、演出家として演劇、ミュージカル、オペラ、コンサート、TVなど様々なフィールドで活動中。2018年、石原さとみ主演『密やかな結晶』、藤原竜也主演『ムサシ』、石丸幹二主演『ジギルとハイド』、『アニー2018』などの振付、綾瀬はるか主演 NHKファンタジー大河『精霊の守り人』では、全シーズンの所作と踊りのクリエイションを担当し、3年間に渡り撮影に携わる。

◆蛭川幸雄さん、さいたまゴールドシアターとの出会い

1998年、蛭川幸雄演出「ロミオとジュリエット」出演をきっかけに2001年「真情あふるる軽薄さ2001」で振付師として本格的に起用される。その後も役者、また振付師として10数年に渡り蛭川幸雄の舞台に数多く携わる。主な振付け作品として「近代能楽集」「三文オペラ」「お気に召すまま」「オレステス」「から騒ぎ」「恋の骨折り損」「冬物語」「表裏源内蛙合戦」「雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた」「血は立ったまま眠っている」「ガラスの仮面」「じゃじゃ馬馴らし」「ムサシ」など。高齢者の演劇集団さいたまゴールドシアターのオーディション時より同席し、60代から80代までの彼らのダンス指導に5年に渡り携わる。共有言語のもと彼らとプロデュースするREVOのコラボレーションを2007年より始め、2018年東京ミッドタウン日比谷での「ミライノキオク」でも進化した彼らの活躍を披露。

◆ジョン・ケアードとの出会い

オーディションにより「レ・ミゼラブル」の演出家ジョン・ケアードに抜擢され「ヘガーズ・オペラ」(日生劇場)、「夏の夜の夢」(新国立劇場)、「キャンディード」(帝国劇場)などの作品のステージング&振付を担当。日本人の演出家とは違った形で演出家と一体となりボーダレスな関係で舞台を構築するを体験。「彼女は最上の才能をもつ振付家の一人。彼女の才能は独特であり、演劇界や国に大なる貢献をしている。」とのジョン・ケアードの推薦を受け2012年秋より文化庁新進芸術家海外派遣員として渡欧。ロンドン、パリ、ストックホルム、ウィーン、ブタペスト、ヴッパータールなどの都市を中心に演劇、ダンス、オペラ、タンツテアターの現場へと飛び回る。

◆演出家・ステージングディレクターとして

森山良子、江原啓之、葉加瀬太郎のコンサート、ウィーンミュージカルとのコラボ「Super Live」「LOVE LEGENDE」などのオリジナルライブ、またアミューズ若手タレントによる「天使のアクマ悪魔のテンシBLACK&WHITE」「ピノキオ」(高崎卓馬脚本)の演出・振付、アルバムから舞台を具現化するSound Horizonの世界、声優たちのステージを振付するテニプリフェスタなども手がける。2013年 日生劇場ファミリーフェスティバルで演出・振付したオペラ『ヘンゼルとグレーテル』はその独自の世界観が好評で2019年、フルヴァージョンとして再演される。

◆タンツテターとワークショップ

2003年よりトップコートにて役者と共に根性と表現力を学ぶ場を与えられる。デビュー前の松坂桃李、菅田将暉、中村倫也などと時間を共有する。トップコートのスタジオにて一般人参加の**オープンワークショップ「うらんのき」**を開始。一般人と役者、タレント関係なく、皆で演劇を表現することのあれやこれやを実験、模索、研究する。自ずとそれはタンツテターというカテゴリーでダンスという縛りではなく、日本ではあまり見ない身体表現の勉強の場となる。現在はレプロエンタテイメントにてアーティストへ、またオープンワークショップも開催！

◆特色とその他の主な仕事

バラエティタレント、リポーターとして日本全国、世界を旅し、様々な人々と触れ合い、また蜷川幸雄、ジョン・ケアードなど演劇性の高い演出家との仕事により**ヒューマニズム溢れる**作品作りが特徴。振付というよりも**ムーブメントクリエイター**として作品に貢献し、役者や踊りが得意でない歌手などのステージングを得意とする。

2011-2013年「ピーターパン」(桑原裕子演出) 振付、2011-2018年「醒めながら見る夢」「海峡の光」「その後の二人」「99歳まで生きたあかん坊」(辻仁成演出) 振付、2012年 佐藤健、石原さとみ主演「ロミオとジュリエット」(ジョナサン・マンビー演出) コレオグラフ、2014-2016 「真田十勇士」「スタンドバイユウ」(堤幸彦演出)振付、2015-2018「GS近松心中物語」「海の子どもたち」「すべての四月のために」(鄭義信演出)振付、2013-2015「レミング 世界の果てまで連れてって」(松本雄吉演出)振付、2012-2018「ジキルとハイド」「アニー-17-18」(山田和也演出)振付、他、鈴木裕美、長塚圭史、三谷幸喜、深作健太、青木豪、菅野こうめい、深川栄洋、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、フィリップ・グリーンなど多彩な演出家の作品に携わる。

◆ライフワーク

Revolution Dance Performance = REVO

レヴォリューションダンスパフォーマンス = レヴォ

1991年 敷居は低く志の高いアートな舞台を目指し、個人プロデュースにより活動を開始！自身のフィルターを通した世界を、大いなるリスペクトと共にやれる限り創造し続ける。

構成・演出・振付・制作を担い、2003年からは新国立小劇場を中心に毎年**オリジナル作品を発表**。ドラマ性の高い**ヒューマニズム溢れるダンスパフォーマンス**として幅広い客層に支持される。また2008年より密接した空間でのタンツテアター“neorevo”を始動。少人数での物語ライブパフォーマンスを実験的に繰り返し広げる。2011年震災後の5月、新国立小劇場『ラヴィアンローズ』公演以降、個人プロデュースの問題を考えなおす為、一時休戦。2012年秋より文化庁新進芸術家海外派遣員として渡欧。

2014年10月 原宿VACANTにてneorevo『エピソード』、12月六本木Super Deluxeにてneorevo『noise』を発表！ひとつのテーマを異なるターゲット、シチュエーションで作品にし、CINEMA dub MONKS、また映像監督に堤幸彦などを交え、新しいスタイルのパフォーマンスを試みた。2015年11月THE WORKS『Duo a la? Mord』では子供も楽しめるパフォーマンスとしてMANZAI デュオ+タンツテアターをプロデュース。2016年早くも25周年を迎え、数年間の想いと経験をホームベースである新国立小劇場にて壮大なる作品『SESSION』を公演。大きく出すぎてまたも大赤字！懲りずに2017年、浅草九劇にて『Duo a la? Mode 2017 ~浅草ロックはパリ6区!~』を公演。2018年5月、東京ミッドタウン日比谷にて3歳から79歳まで多様な人物による**タンツテアター REVO side B『ミライノキオク』**を公演。

◆web

広崎うらん&REVO HP <http://uran-revo.com>

レプロ https://www.lespros.co.jp/talent/creator/uran_hirosaki/

Twitter <https://twitter.com/uranhirosaki>

insta <https://www.instagram.com/uranhirosaki/>

blog <https://ameblo.jp/uranhirosaki/>

REVO FB <https://www.facebook.com/uranrevo/>

urannnoki FB <https://www.facebook.com/urannnoki/>
